IZA 190-HZ
IZA 250-LZ
ZA 190-HZ
ZA 250-LZ

Integrated Zone Amplifier/Zone Amplifier

設置および操作ガイド

* 説明の便宜上、イラストは実物と異なることがあります。
このガイドは施工業者様用です。

本製品は専門の施工業者による設置のみを対象としています。本書は、一般的な固定設置システムにおける Bose® FreeSpace® アンプを対象に、基本的な設置と安全上のガイドラインを施工業者様に提供いたします。設置を開始する前に、本書をお読みください。

警告：全てのボーズ製品は、各地域、州、連邦、および業界の規則に従って使用する必要があります。各地の建築に関する条例や規制など、適用される全ての法律に従ってアンプを設置することは施工業者の責任です。本製品を設置する前に、各地域の管轄官庁に相談してください。

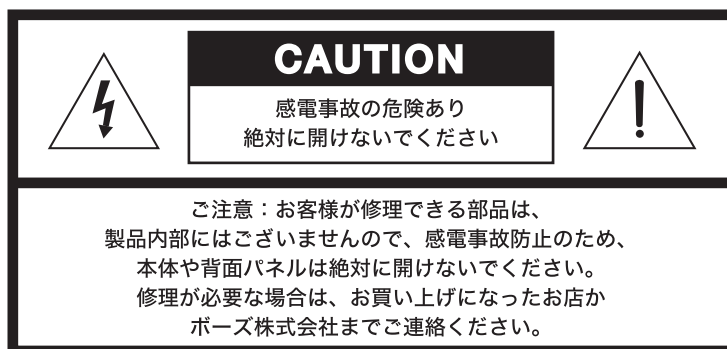
警告：火災や感電の原因となるため、製品に雨や水滴が付着しないようにしてください。

注意：結露の可能性のある場所に本体ケースをマウントしないでください。

警告：本機器に水が入ったり、濡れたりしないようにご注意ください。花瓶などの液体が入った物品を製品の上や近くに置かないでください。他の電気製品と同様、システム内に液体が侵入しないように注意してください。液体が侵入すると、故障や火災の原因となることがあります。

CAUTION

感電事故の危険あり
絶対に開けないでください

ご注意：お客様が修理できる部品は、
製品内部にはございませんので、感電事故防止のため、
本体や背面パネルは絶対に開けないでください。
修理が必要な場合は、お買い上げになったお店か
ボーズ株式会社までご連絡ください。

正三角形に矢印付き稲妻マークが入った表示は、製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があることをお客様に警告するものです。アンプ電源がオンの場合は、出力端子に触れないでください。全ての接続作業は、アンプの電源を切ってから行ってください。

正三角形に感嘆符が入った表示は、製品全体にも表示されている通り、本書の中で、取り扱い上およびメンテナンス上、重要な項目であることをお客様に警告するものです。

注意：本製品は、保護アース（接地）接続済の AC 電源コンセントに接続する必要があります。

注意：火のついたろうそくなどの火気を製品の上や近くに置かないでください。

警告：のどに詰まらせる危険性がある小さな部品が含まれています。
本製品は 3 歳以下のお子様がご使用になることはできません。

注記：製品ラベルは製品の底面にあります。

注記：万一の事故や故障に備えるために、電源プラグや電源接続器はよく見えて容易に手が届く位置にあるコンセントに接続してください。

注記：この製品は室内専用です。屋外、RV 車内、船上で使用するようには設計されていません。また、このような使用環境におけるテストも行われていません。

注記：アンプを平らな面の上に設置する場合は、適切な通気を確保するために付属のピン付き脚を取り付けてください。2台のアンプを設置する場合、両方に脚が取り付けられていれば、1台をもう1台の上に載せて設置する事も可能です。脚を取り付ける時はアンプを裏返しにし、本体ケース底面の4つの穴それぞれに脚をはめ込みます。続いてピンを押し込み、脚を固定します。

注記：アンプをラックマウントした場合は、適切な通気を確保するために、上下1RU分を空きスペースとして確保してください。また、アンプが40℃を超える温度にさらされないように、ラック内の温度を適切に管理してください。

安全上の重要な注意事項

1. 本書をよくお読みください。
2. 必要なときにご覧になれるよう、本書を保管しておいてください。
3. 製品上および本書に示されている全ての警告に留意してください。
4. 全ての指示に従ってください。
5. この製品を水や湿気の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は乾いた布を使用してください。
7. 換気孔は塞がないでください。メーカーの指示に従って設置してください。製品の動作の信頼性を確保し、過熱を防ぐには、設置の際に適切な換気を妨げないでください。
8. ラジエーター、暖房送風口、ストーブ、その他の熱を発する装置（アンプを含む）の近くには設置しないでください。
9. 極性プラグを使用する場合、極性プラグや接地付きプラグの安全機能を損なうような使い方はしないでください。極性プラグには 2 つの端子があり、片方の端子がもう一方の端子よりも幅が広くなっています。また、接地極付きプラグには 2 つの端子に加え、接地用のアース棒が付いています。極性プラグの広い方の端子および接地極付きプラグのアース棒は、お客様の安全を守る機能を果たします。製品に付属のプラグがお使いのコンセントに合わない場合は、電気技師に連絡して新しいコンセントに取り替えてください。
10. 電源コードが踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。特にプラグやテーブルタップ、装置側の接続部などには注意してください。
11. 製造元の指定するアタッチメントまたはアクセサリーのみを使用してください。
12. 製造元の指定する、または製品と一緒に購入されたカート、スタンド、三脚、ブラケット、または台以外の使用は避けてください。カートを使用する場合、製品の載ったカートを移動する際には転倒による負傷が起きないよう十分注意してください。
13. 雷雨時や長期間使用しない場合は、装置の電源を抜いてください。
14. サービスが必要な際には、必ず資格を持つサービス担当者にお任せください。装置に何らかの損傷がある場合は、サービスが必要です。例えば、電源コードやプラグが損傷した場合、装置に液体がこぼれたり物が落下した場合、装置に雨や水滴が付着した場合、正常に機能しない場合、装置を落とした場合などにはサービスが必要です。本製品を自身でサービスしようとしないでください。カバーを開いたり、取り外したりする際、電圧の危害やその他の危険にさらされることがあります。サービスに関しましては、ボーズ株式会社サービスセンターにお問い合わせください。
15. 火災や感電を避けるため、壁のコンセントや延長コード、テーブルタップなどの定格容量を超える状態で製品を使用しないでください。
16. 製品に異物が混入したり、液体が侵入しないようにしてください。異物や液体が電源回路に触れてショートすると、火災や感電の原因となる恐れがあります。
17. ユニットの周囲温度は、動作可能な最高温度である 40°C を超えないようにしてください。エンクロージャーラック内の状態は室温条件を上回って温度が上昇する可能性があるため、注意してください。

CE This product conforms to all EU Directive requirements as applicable by law. The complete Declaration of Conformity can be found at www.Bose.com/compliance.

This Product meets the immunity requirements for the E2 class EN55103-2 directive.

Initial turn on inrush current: 13.9 Amps (230V/50 Hz), 7.6 Amps (120V/60 Hz)

Inrush current after 5 seconds AC mains interruption: 13.9 Amps (230V/50 Hz), 7.5 Amps (120V/60 Hz)

Information About Products That Generate Electrical Noise (FCC Compliance Notice for US)

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at one's own expense.

This product complies with the Canadian ICES-003 Class A specifications.

安全上の留意項目

ご使用前に、下記の「留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示について

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

△記号は警告･注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです（左図の場合は分解禁止を意味します）。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

●異常が発生したとき

⚠ 警告

内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に点検をご依頼ください。特にお子様がいるご家庭ではご注意ください。

変なにおいや音がしたときは、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。

電源コードや電源プラグが傷んだ場合は交換する
電源コードや電源プラグが傷んだ状態（芯線の露出、断線、変形など）で使用すると、火災や感電の原因となります。販売店に交換をご依頼ください。

落としたり、キャビネットを破損したときは、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に点検をご依頼ください。

●設置、保管するとき

⚠ 警告

水の近くまたは湿度の高い場所で使用しない
機器内部に水が入った場合、火災や感電の原因となります。

通風孔をふさがない
布をかぶせたり、じゅうたんや布団の上に置いたり、通気が不十分な狭いスペースに押し込んだりしないでください。本体内部に熱がこもり、火災の原因となります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全な場合、発熱による感電や火災の原因となります。また、ほこりがたまり易くなったり、プラグの金属部分に触れる危険性があります。

電源コードを傷付けない
電源コードを傷付けたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、加熱したり、上に重い物を乗せたりしないでください。ケーブルが破損して、火災や感電の原因となります。特に、電源プラグ部分やコードが本体から出ている部分はお気を付けください。

電源コードは付属の専用品を使用する
専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因となります。また、本機の専用電源コードを他の機器に使うこともお止めください。

タコ足配線をしない
コンセントや配線器具に同時に多数の機器を接続して電源を取ると、コードなどが過熱し、火災の原因となります。

アース (接地) を確実に行う
万一漏電した場合、感電する原因となります。アース工事につきましては、販売店にご相談ください。

配線および取付は、取扱説明書に記載してある通りに行う
配線および取付は、取扱説明書に記載してある通りに行ってください。配線、取付を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。

●設置、保管するとき

⚠ 警告

火災や感電の危険性を低減するために、機器を雨や湿気にさらさない

機器内部に水をたらしたり、かけたり、花びんのように水を満たしたものをそばに置かない
他の電気製品と同様に、機器内部に水分をこぼしたりしないでください。故障や火災の原因となります。

本機の上や周囲に、小さな金属物を置かない
通風孔などから内部に落下した場合、火災や感電の原因となります。

風呂、シャワー室など、水のかかる恐れのある場所には置かない
機器内部に水が入った場合、火災や感電の原因となります。

交流 100 ボルトの電源を使用する
海外などで、表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外で使用すると、火災や感電の原因となります。

電源プラグは、抜き易い位置にあるコンセントに接続する
万一の事故や故障に備えるために、電源プラグはよく見えて容易に手が届く位置にあるコンセントに接続してください。

電源コンセントの定格電流値を超える接続をしない
過大な電流が流れ、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

設置作業は専門業者へ
設置に関しては、専門の業者にご依頼ください。

高温の場所に置かない
窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所、熱源のそばなど、温度が異常に高くなる場所に機器を設置 ・ 保管しないでください。過熱や部品の変形などにより、火災や感電の原因となることがあります。

ケーブルの芯線は全てしっかりと撚りを掛けた上で、確実にコネクター内へ結線する
撚り線の一本が外れるなどして隣り合った端子に接触すると、ショート事故が起こる危険性があります。

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない
火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らない
電源コードが傷付き、火災や感電の原因となることがあります。必ず電源プラグを持って抜いてください。

移動させる場合は、電源コードその他の接続線を外す
電源コードに無理な力が加わって傷付き、火災や感電の原因となることがあります。また他の接続線が引っかかり、けがの原因となることがあります。

●使用するとき

⚠ 警告

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所、振動する所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや事故の原因となります。

雷が鳴り出したら、本体やケーブル類に触れない

感電の原因となります。

本体のカバーを外したり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となります。内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

機器のそばに、ろうそく等の火がついているものを置かない

引火して火災の原因となります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

●使用するとき

⚠ 注意

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く

本機は電源を切った状態でも、常に微弱な電流が流れています。長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本機をラックに設置した状態でラックごと移送する場合は、本機の背面部分を物理的に固定する

棚板やサポートアングル金具等を使用して本機をラック内に固定することをお勧めします。

定期的に内部の掃除をする

5 年に一度程度を目安に、機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま長時間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

上に重い物を置かない

倒れたり、落下した場合、けがの原因となることがあります。

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。

配線時は電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントに差したまま行うと、感電の原因となることがあります。

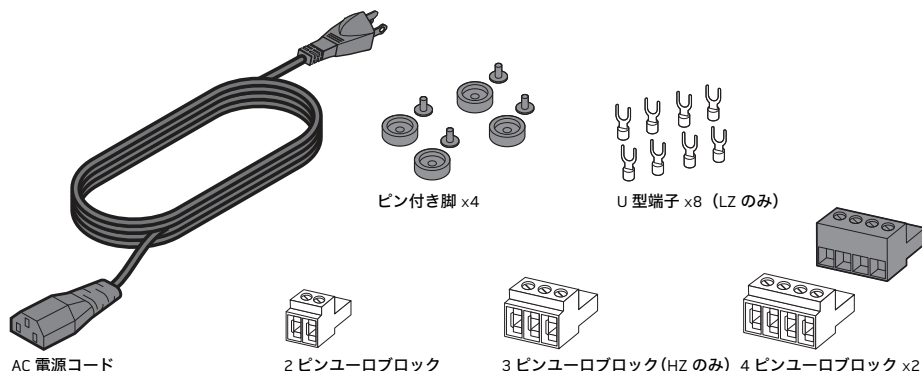
目次

1. はじめに

本書では、以下の製品の設置および操作手順について説明します。

- FreeSpace® IZA 190-HZ Integrated Zone Amplifier
- FreeSpace IZA 250-LZ Integrated Zone Amplifier
- FreeSpace ZA 190-HZ Zone Amplifier
- FreeSpace ZA 250-LZ Zone Amplifier

2. FreeSpace® IZA 190-HZ/IZA 250-LZ Integrated Zone Amplifier

2.1 概要

AC 電源コード x1

ピン付き脚 x4

ページ入力用 4 ピンユーロブロック x1

リモート接続用 4 ピンユーロブロック x1

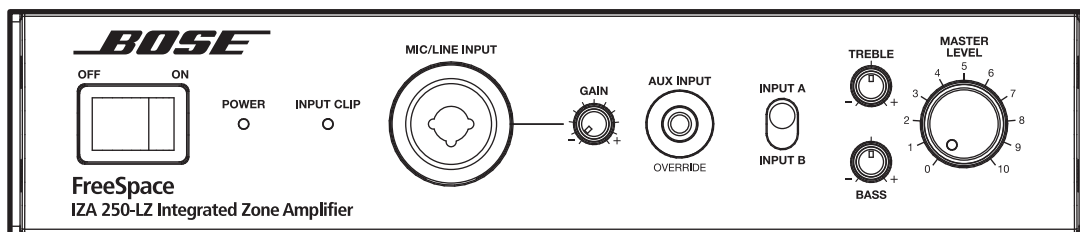
ミュート接続用 2 ピンユーロブロック x1

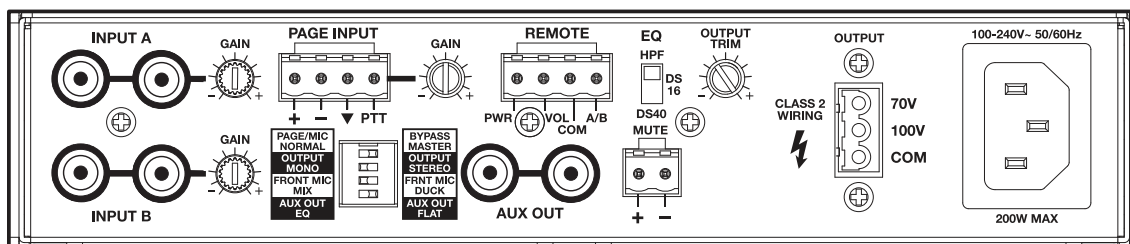
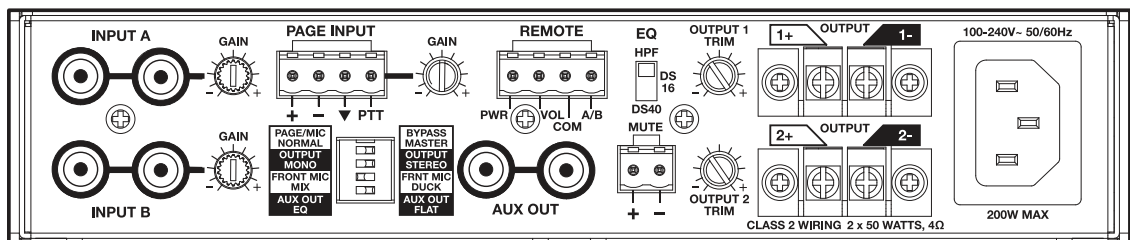
出力接続用 U 型端子 x8（LZ のみ）

出力接続用 3 ピンユーロブロック x1（HZ のみ）

2.2 フロントパネル

注意： フロントパネルの操作とインジケーターは、FreeSpace IZA 190-HZ アンプの場合も同じです。

FreeSpace IZA 250-LZ

2.3　リアパネル

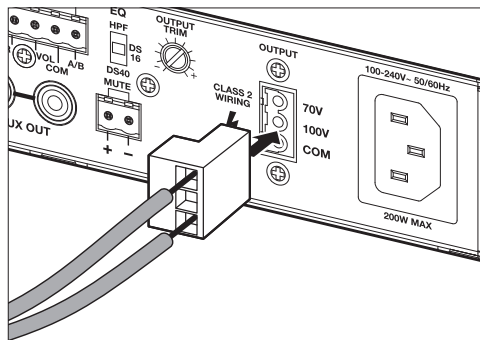
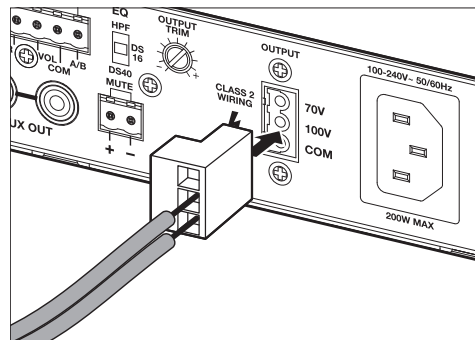
FreeSpace® IZA 190-HZ

FreeSpace IZA 250-LZ

2.4　スピーカー接続

サイズが 18AWG（0.8 mm^2）から 14AWG（2.0 mm^2）のケーブル以外は使用しないでください。

2.4.1　スピーカーを接続する（IZA 190-HZ）

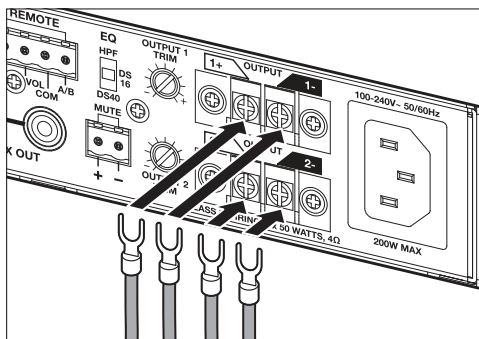
注意： スピーカー接続は、ZA 190-HZ アンプの場合も同じです。

3 ピンユーロブロックの配線

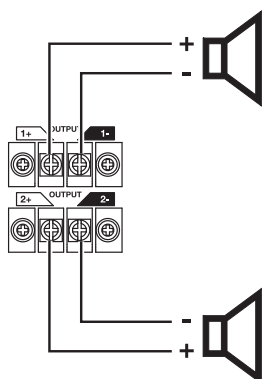
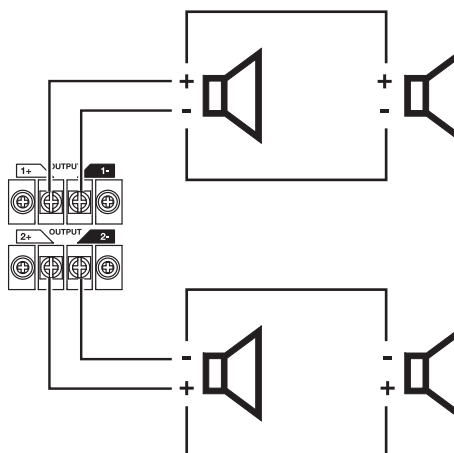
70V 動作の場合、ピン 1（70V）およびピン 3（COM）を使用

100V 動作の場合、ピン 2（100V）およびピン 3（COM）を使用

2.4.2 スピーカーを接続する（IZA 250-LZ）

注意： スピーカー接続は、ZA 250-LZ アンプの場合も同じです。

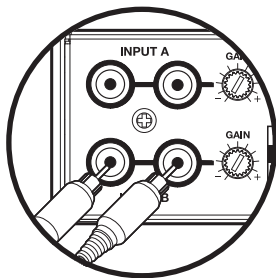
1. 付属の U 型端子をスピーカーケーブルに取り付けます。青の U 型端子は、16-14AWG のケーブルと互換性があります。赤の U 型端子は、22-16AWG のケーブルと互換性があります。

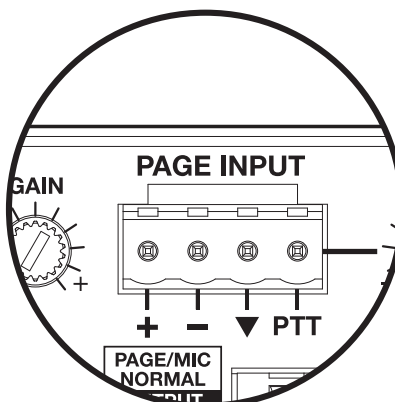
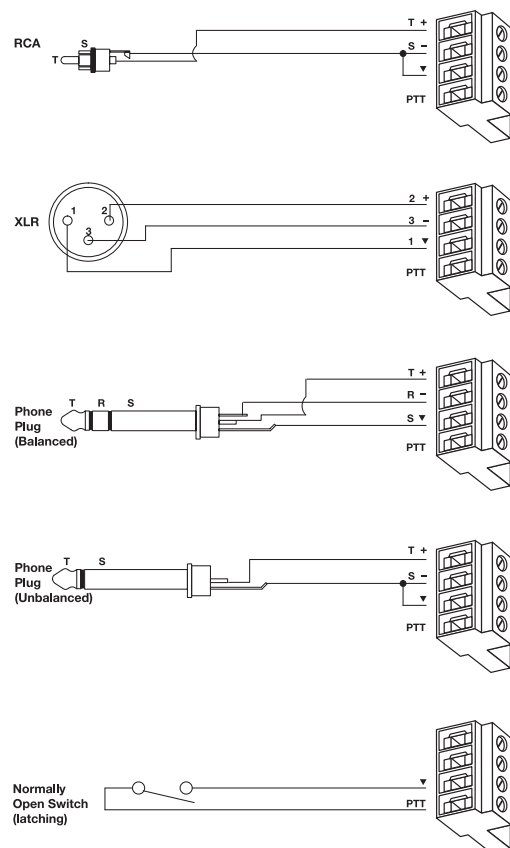
   注意： ぴったり合うように、必要に応じて U 型端子を曲げてください。

2. 1 台のスピーカー、あるいは並列に 2 台のスピーカーを接続します。スピーカーを並列に接続する場合は、以下のようにします。
   i. アンプから、1 台目のスピーカーのプラス端子（+）とマイナス端子（-）にケーブルを接続します。
   ii. 2 台目のスピーカーのプラス端子（+）とマイナス端子（-）に 1 台目のスピーカーのプラス端子（+）とマイナス端子（-）を接続します。

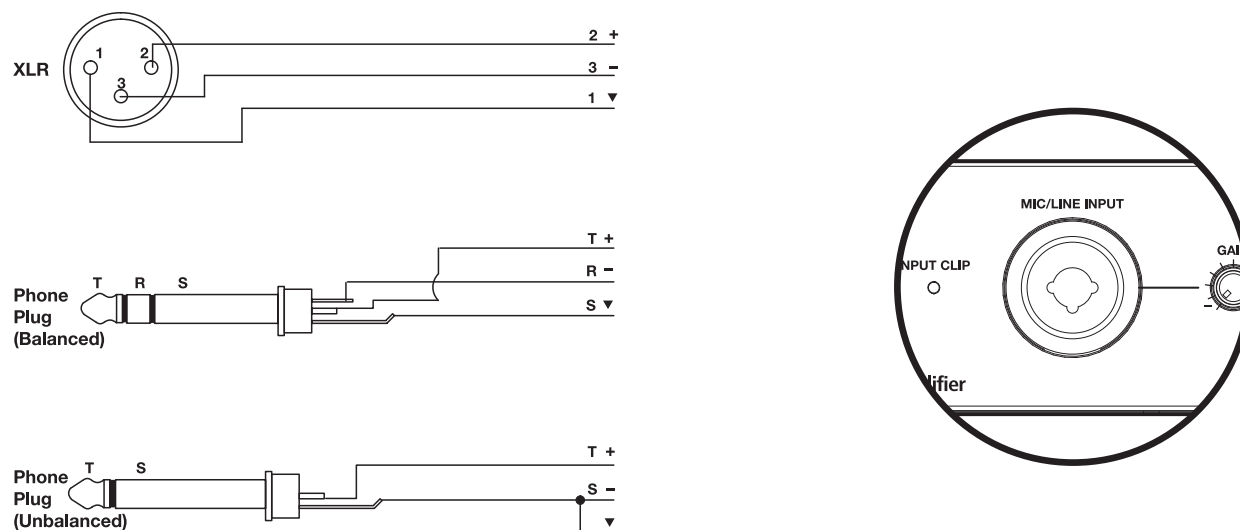
注意： この方法では、3 台以上のスピーカーを接続しないでください。接続した場合、アンプが損傷することがあります。

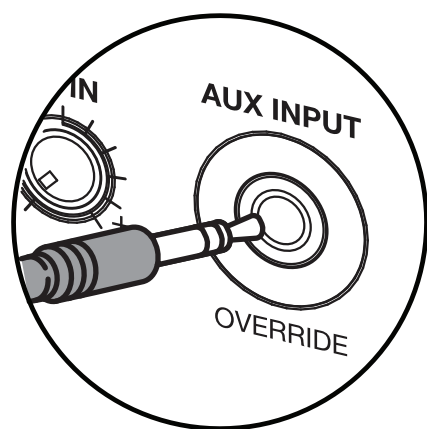
4Ω 〜 8Ω の単一スピーカー

並列に接続された 2 つの 8Ω のスピーカー

2.5　入力接続

2.5.1　RCA 入力接続

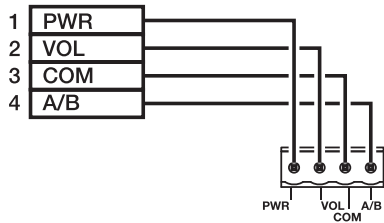
INPUT A または INPUT B に RCA プラグを差し込みます。

2.5.2　PAGE INPUT（ページ入力）接続

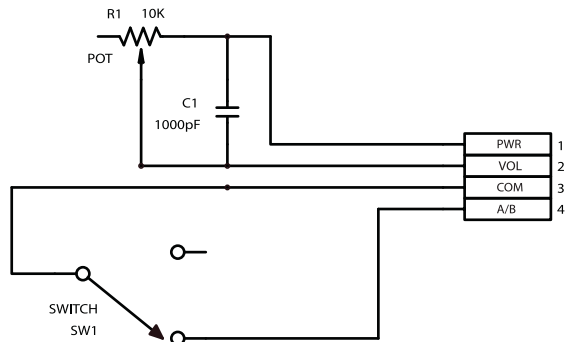
PAGE INPUT は、トリガーコンタクトクロージャーのマイク / ライン入力です。この入力信号は、トリガーが検出されると、全ての出力（AUX OUT を含む）に送られます。これは、プッシュトゥートークのページングマイクと電話ページングシステム用に設計されたものです。入力の配線方法については、以下の図をご参照ください。付属の 4 ピンユーロブロックを使用します。

2.5.3　MIC/LINE INPUT（マイク / ライン入力）接続（フロントパネル）

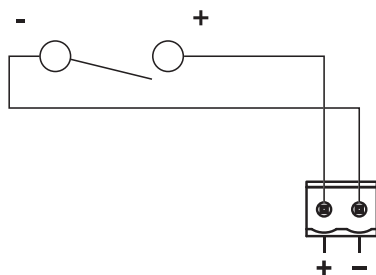
MIC/LINE INPUT コネクターは、携帯型ダイナミックマイクや、XLR、TRS または TS ¼" マイクケーブルで使用するために設計されています。この入力ではラインレベルのソースも使用できます。入力の配線方法については、以下の図をご参照ください。

2.5.4　AUX INPUT（外部入力）（フロントパネル）

フロントパネルの外部入力は、MP3 プレーヤーなどのポータブルオーディオ機器やラップトップの接続用に設計されています。3.5mm ステレオミニプラグを AUX INPUT に接続すると、AUX INPUT に接続された音源が再生していない場合でも、INPUT A/B は自動的に無効になります。

2.6　リモートコントローラー接続

2.6.1　リモート音量調整

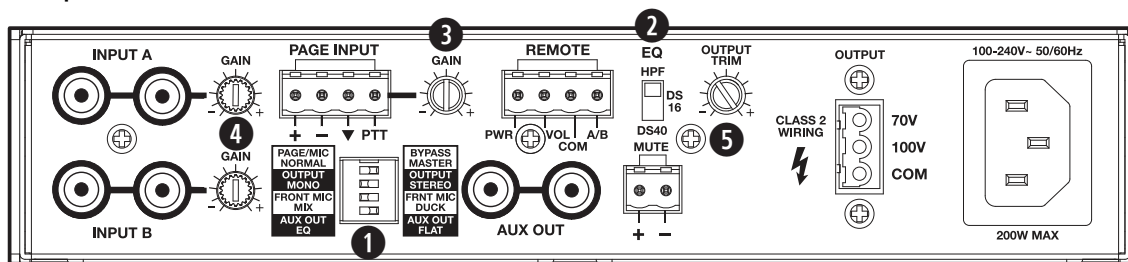
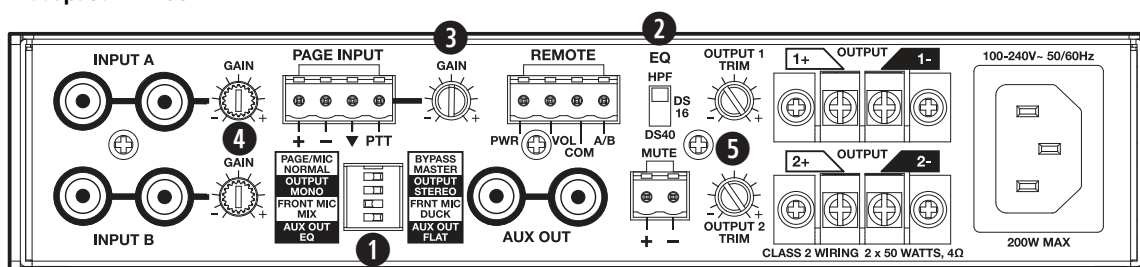
アンプは、アクセサリー DXA VC-AB で機能するように設計されています。アンプのリアパネルの REMOTE コネクターには、これらのユーザーインターフェースのコネクターと一致させるためのラベルが付けられています。付属の4ピンユーロブロックを使用します。

詳細については、DXA VC-AB の取扱説明書をご参照ください。

アンプは、10KΩ のリニアポットとスイッチでも操作できます。

2.6.2　標準コンタクトクロージャーによるミュート

アンプは、トリガーが MUTE コネクターから検出されると、全ての出力（AUX OUT を含む）をミュートするように設計されています。これは、シンプルなオン / オフスイッチで行えます。付属の 2 ピンユーロブロックを使用します。

2.7　AC 電源接続

リアパネルで全ての入出力の接続を行った後、付属の AC 電源コードでアンプを AC 電源に接続します。

2.8 セットアップ – リアパネルの操作

FreeSpace IZA 190-HZ

FreeSpace IZA 250-LZ

❶ アンプモード DIP スイッチ

PAGE/MIC NORMAL – BYPASS MASTER

アナウンスが確実に聞こえるように、ページソースがマスターレベル出力と連動する、あるいは独自の出力レベルで設定するかを切り替えます。

OUTPUT MONO – OUTPUT STEREO

ステレオソースが、スピーカーコネクターと AUX OUT RCA コネクターからモノラルまたはステレオのどちらで出力されるかを切り替えます。

注意： IZA 250-LZ アンプでは、OUTPUT STEREO に設定した場合、OUTPUT 1 は左側のチャンネル、OUTPUT 2 は右側のチャンネルになります。IZA 190-HZ では、OUTPUT STEREO に設定した場合、左側のチャンネルがスピーカー出力に送られます。

FRONT MIC MIX – FRONT MIC DUCK

マイクに向かって話したときに、フロントパネルのマイク入力と音楽をミックスするか、または音楽の出力レベルを自動的に落とす（ダック）かを切り替えます。

AUX OUT EQ – AUX OUT FLAT

AUX OUT に選択されたスピーカーの EQ プリセットが適用されるかどうかを決定します。増設した Zone アンプとともに使用する場合、FreeSpace DS 16 スピーカーと DS 40 スピーカーを最適化できます。

❷ スピーカー EQ プリセットスイッチ

Bose FreeSpace DS 16 スピーカーや DS 40 スピーカーのパフォーマンスを最適化するように設計されたスピーカーイコライゼーションプリセットを提供します。パッシブ型スピーカーでは、ハイパスフィルター（HPF）設定も利用できます。ハイパスフィルターは、IZA 190-HZ の場合は 60Hz、IZA 250-LZ の場合は 40Hz に設定されます。

選択された EQ プリセット（HPF、DS 16、DS40）は、AUX OUT EQ モード DIP スイッチで選択されている場合に、AUX OUT から増設した Zone アンプに送信できます。

❸ ページ入力 GAIN（ゲイン）ボリューム

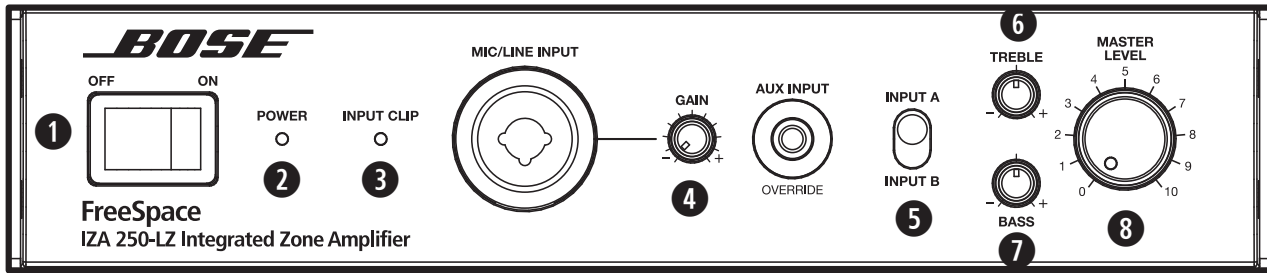
ページ入力レベルの微調整が可能です。フロントパネルの INPUT CLIP インジケーターが赤の場合、入力ゲインを減らします。調整範囲は、0dB から +50dB です。

❹ ライン入力 GAIN（ゲイン）ボリューム

INPUT A/B レベルの微調整が可能です。フロントパネルの INPUT CLIP インジケーターが赤の場合、入力ゲインを減らします。調整範囲は、-20dB から +20dB です。

❺ OUTPUT TRIM（出力調整）ボリューム

マスターレベルに応じて個々のスピーカーの出力を下げることができます。調整範囲は、-20dB から 0dB です。この機能は、ある出力を他の出力（増設した Zone アンプの出力を含む）のスピーカーよりも低い音量に設定する必要がある場合に役立ちます。

2.9 操作 – フロントパネルの操作とインジケーター

注意： フロントパネルの操作とインジケーターは、FreeSpace® IZA 190-HZ アンプの場合も同じです。

❶ OFF/ON スイッチ

アンプの電源をオンまたはオフにします。

❷ POWER インジケーター

アンプがオンの場合、青く点灯します。

❸ INPUT CLIP インジケーター

ソースがしきい値 -3dBFS に近づくと赤く点灯します。インジケーターが頻繁に点灯する場合、入力信号レベルを下げます。

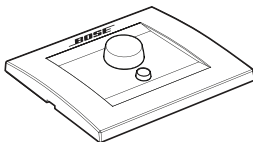
❹ MIC/LINE INPUT GAIN（マイク / ライン入力ゲイン）ボリューム

マイク / ライン入力レベルの微調整が可能です。INPUT CLIP インジケーターが赤の場合、入力ゲインを減らします。調整範囲は、0dB から +50dB です。

❺ INPUT A/B 選択スイッチ

アンプのフロントパネルで、背面のライン入力 A および B を選択できます。

背面のライン入力 A および B は、オプションのアクセサリー DXA VC-AB を使用してリモートで選択することもできます。

注意： DXA VC-AB を接続している場合、アンプのフロントパネルの入力セレクターは無効になります。DXA VC-AB の A/B スイッチの位置によって、どのソースを選択するかが決まります。

❻ TREBLE（高音域）ボリューム

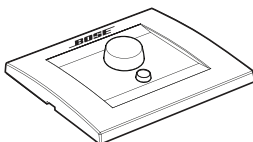
出力の音質を調整できます。7kHz で +/-6dB の調整が可能です。

❼ BASS（低音域）ボリューム

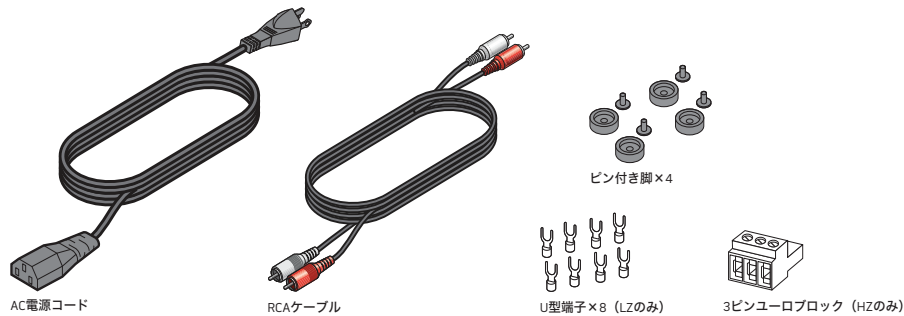
出力の音質を調整できます。100Hz で +/-6dB の調整が可能です。

❽ MASTER LEVEL（マスターレベル）ボリューム

スピーカーと可変 AUX OUT 両方の音量を操作します。

マスターレベルは、オプションのアクセサリー DXA VC-AB を使用してリモートで操作することもできます。

注意： DXA VC-ABを接続している場合、フロントパネルの MASTER LEVEL ボリュームは機能しません。
ユーザーインターフェースの音量調整によって、システム全体の音量が決まります。

3. FreeSpace® ZA 190-HZ/250-LZ Zone Amplifier

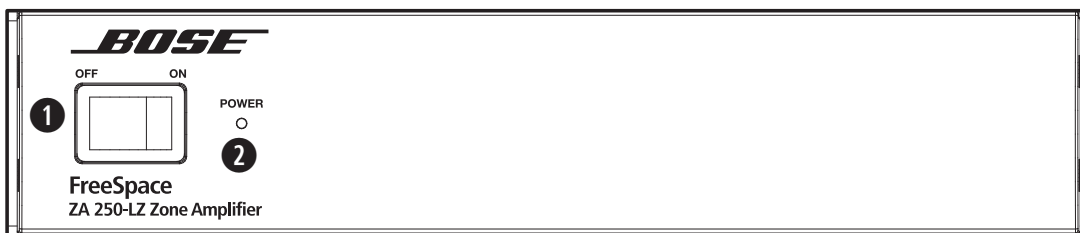
3.1 概要

AC 電源コード x1

RCA ステレオケーブル x1

ピン付き脚 x4

U 型端子 x8（LZ のみ）

3 ピンユーロブロック x1（HZ のみ）

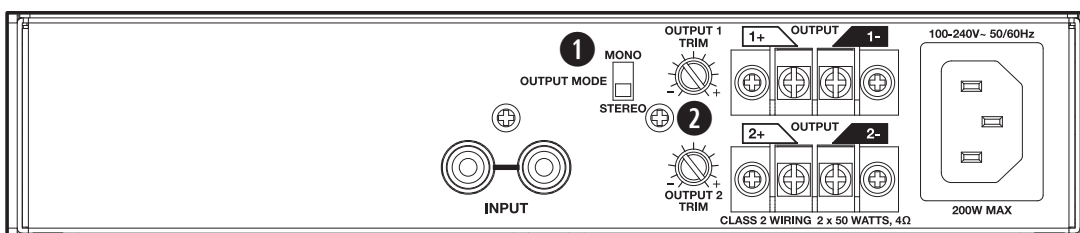
3.2 フロントパネルの操作とインジケーター

注意： フロントパネルの操作とインジケーターは、FreeSpace® ZA 190-HZ アンプの場合も同じです。

❶ OFF/ON スイッチ

アンプの電源をオンまたはオフにします。

❷ POWER インジケーター

アンプがオンの場合、青く点灯します。

3.3 リアパネルの操作

❶ OUTPUT MODE スイッチ（ZA 250-LZ のみ）

ステレオソースをモノラルまたはステレオで出力できます。

注意： ZA 190-HZ は、両方の入力チャンネルをモノラルにまとめるように設計されています。

❷ OUTPUT TRIM（出力調整）ボリューム

接続された IZA 190-HZ/250-LZ アンプのマスターレベルに応じて個々のスピーカーの出力を下げることができます。調整範囲は、-20dB から 0dB です。この機能は、ある出力を他の出力（Integrated Zone アンプの出力を含む）のスピーカーよりも低い音量に設定する必要がある場合に役立ちます。

3.4 ZA アンプによる IZA システムの拡張

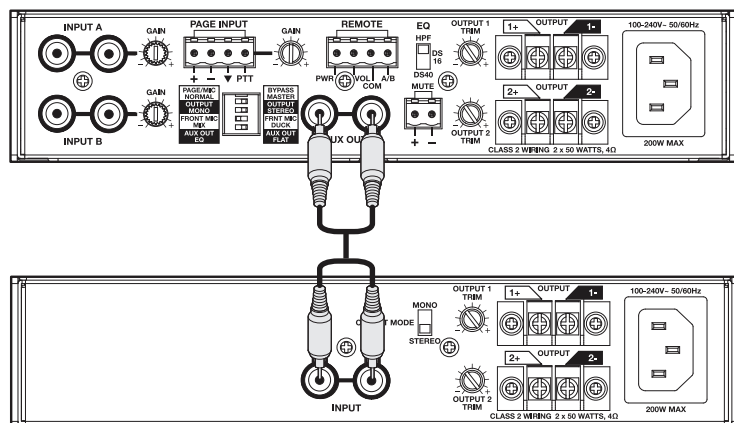
Bose® FreeSpace® ZA 190-HZ/250-LZ Zone Amplifier では、容易にシステムの拡張ができます。システム設計で必要とされるスピーカーの数が、FreeSpace IZA 190-HZ/250-LZ Integrated Zone Amplifier で対応可能なスピーカーよりも多い場合、FreeSpace ZA 190-HZ/250-LZ Zone Amplifier を追加してスピーカーの数を増やすことができます。

3.5 システムコントロール

IZA 190-HZ/250-LZ および ZA 190-HZ/250-LZ アンプは、1 つのシステムとして機能し、同じ音源やページング元を共有します。IZA 190-HZ/250-LZ アンプは、ZA 190-HZ/250-LZ アンプの「マスター」として機能するため、音源を決定し、システム全体の音量をコントロールします。

3.6 入力接続

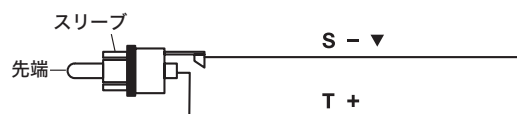
3.6.1 IZA 190-HZ/250-LZ アンプと ZA 190-HZ/250-LZ アンプの接続

IZA 190-HZ/250-LZ アンプの AUX OUT と ZA 190-HZ/250-LZ アンプの INPUT を付属の RCA ケーブルで接続します。

注意： アンプ同士を接続する場合、両方のアンプの AC 電源コードを同じ AC コンセントに差し込むことを推奨します。

3.6.2 Zone アンプと他製品の接続

Zone アンプは、フロントエンドシグナルプロセッサー搭載の Bose FreeSpace® DXA 2120 Digital Mixer/Amplifier、FreeSpace 4400 Business Music System、および ControlSpace® Engineered Sound Processor などと組み合わせても使用できます。

3.6.3 ライン入力接続

フロントエンドシグナルプロセッサーを使用する場合、付属の RCA ケーブルを変更する必要があります。Zone アンプのライン入力 RCA コネクターの配線図は以下のとおりです。

3.6.4 スピーカー接続

手順については、8 ページのセクション「2.4 スピーカー接続」をご覧ください。

4. 設置と配置

4.1　適切な換気の重要性

アンプを配置するには、以下の点に留意してください。

- 空気がアンプの周囲を自由に循環し、適切な換気が行われるようにしてください。天面、底面、および側面に通風孔があります。
- アンプの通風孔を覆ったり、塞いだりしないでください。
- キャビネットなどの狭いスペースにアンプを入れないでください。
- 本体ケースを熱から保護し、暖房やラジエーターなどの直接の熱源から離すようにしてください。

注意： 本体ケースが、動作可能な最高温度である 40°C（122°F）を超えないようにしてください。エンクロージャーラック内の状態は室温条件を上回って温度が上昇する可能性があるため、注意してください。

注意： アンプが熱くなりすぎると、熱保護モードになり、全ての出力をミュートします。

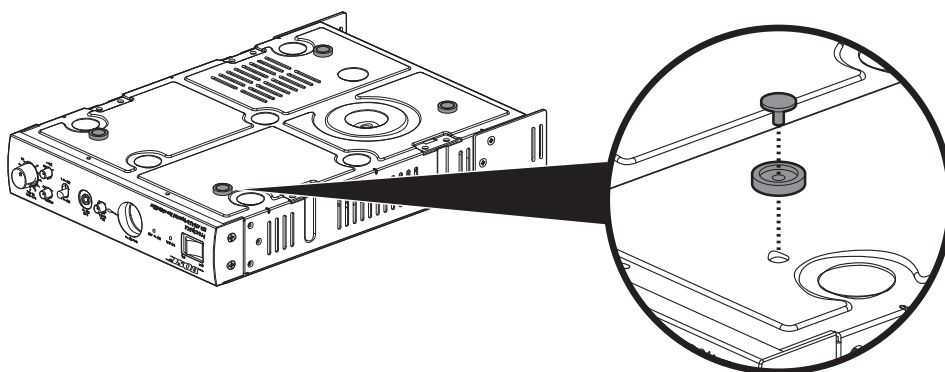
4.2　平面への設置

アンプは、平らで安定した表面（テーブル、カウンター、または棚など）に設置できます。設置面の保護、本体ケースのすべり防止、底面の通風孔からの熱放出のために、アンプにはプラスチック製の脚が付属しています。

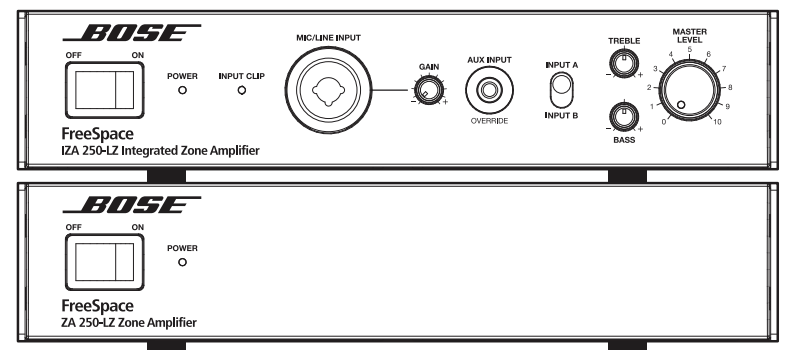
注意： 平面にアンプを置く際は、適切な換気が確保されるように、必ず付属の脚を使用してください。

4.2.1　アンプへの脚の取り付け

付属の脚は、脚部とピンで構成されています。

1. 本体ケースの天面に傷が付かないように、保護するためのシートをひいた平らな水平面に上下逆に置きます。
2. 本体ケースの底面の 4 つの穴に 4 個の脚をはめます。
3. 脚の穴にピンを差し込みます。
4. 脚がはまるまでピンを押し込みます。この手順を 4 個の脚で繰り返します。

4.2.2　アンプを重ねて設置する場合

テーブル、カウンター、または棚の利用スペースが限られている場合、アンプを別のアンプの上に積み重ねることができます。

注意： アンプを積み重ねる場合、適切な換気が確保されるように、両方のアンプに必ず付属の脚を使用してください。

4.3 Rack Mount Kit アクセサリーによる標準ラックへのマウント

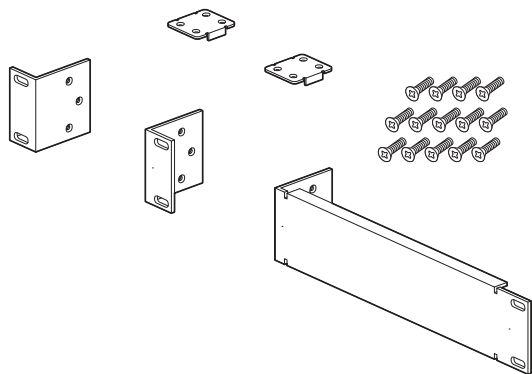
アクセサリー Rack Mount Kit を利用して、標準 19" 1 RU ラックに 1 台または 2 台の FreeSpace® アンプを設置できます。

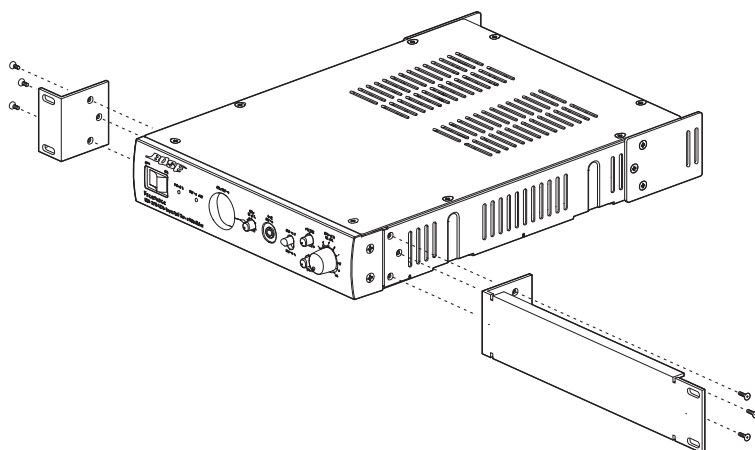
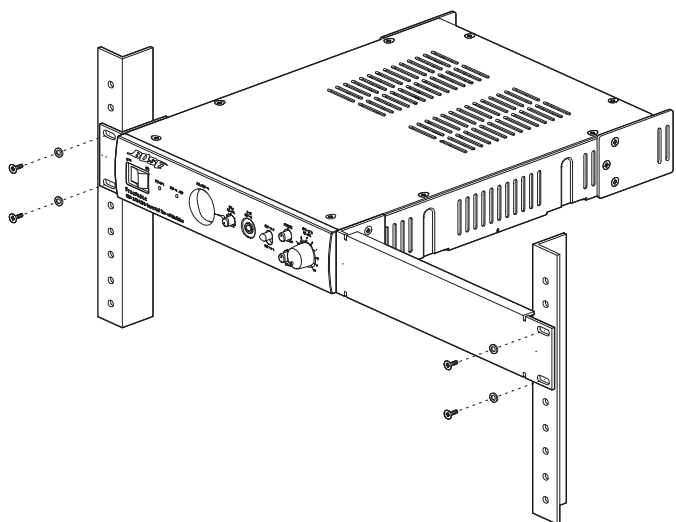
Rack Mount Kit の内容は以下のとおりです。

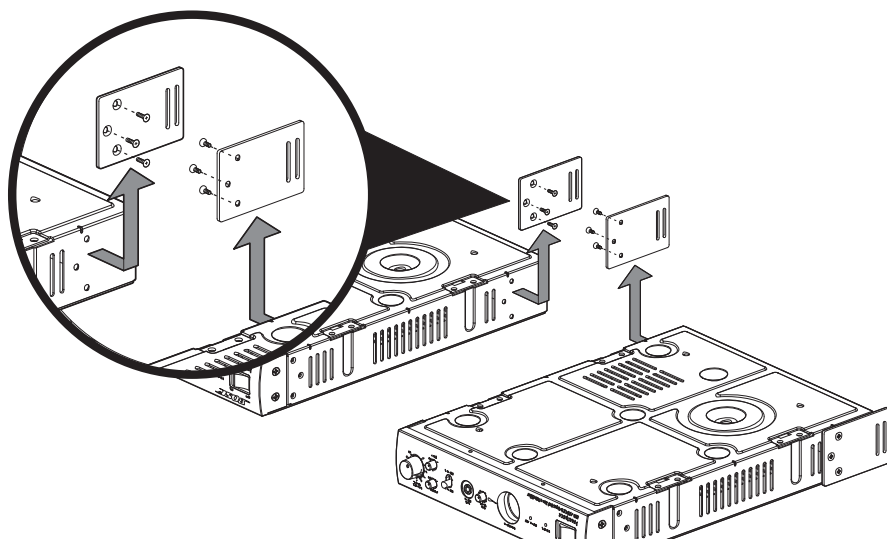
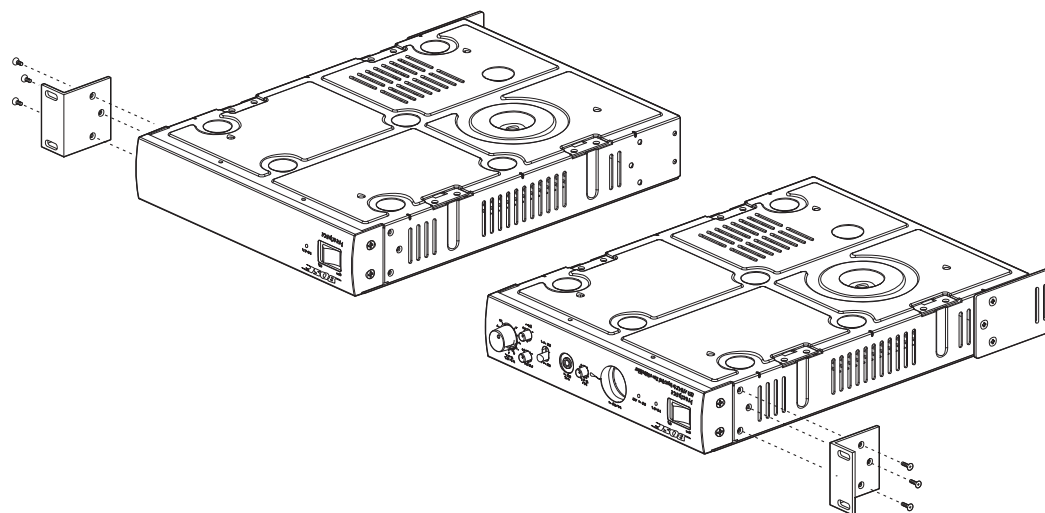
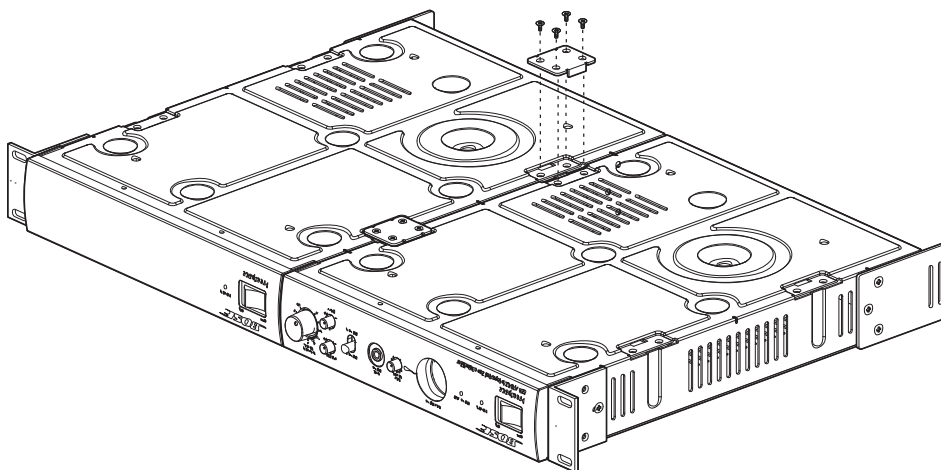
リンクブラケット x2

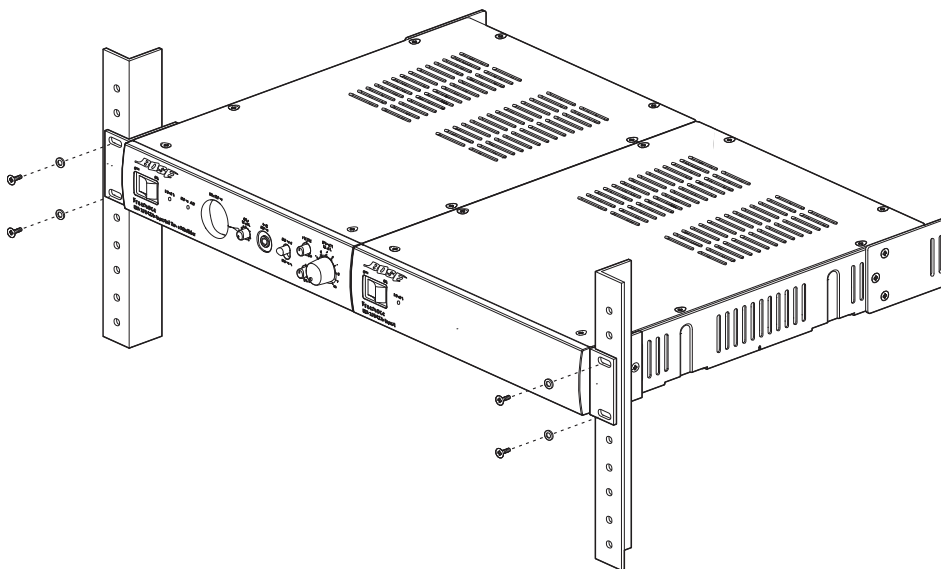
ラックマウント金具（短）x2

ラックマウント金具（長）x1

M3x0.5、6mm 皿ネジ x14

4.3.1 1 台のアンプをマウントする場合

1. 付属のネジを 3 本使用して、アンプの本体ケースの片側にラックマウント金具（短）を 1 つ取り付けます。
2. 付属のネジを 3 本使用して、アンプの本体ケースのもう一方の側にラックマウント金具（長）を取り付けます。

3. 4 本のラックネジとワッシャー（付属されていません）を使用して、ラックにアンプをマウントします。
※ ラックにマウントするためのネジとワッシャーはラックメーカーにお問い合わせください。

4.3.2 2 台のアンプをマウントする場合

1. 2 台のアンプの後方のラックマウント金具が中央で向き合うようにして、両方の金具を取り外します。次に、本体ケースの天面に傷が付かないように、保護するためのシートをひいた平らな水平面に上下逆に置きます。

2. 付属のネジを 3 本使用して、各アンプの本体ケースの片側にラックマウント金具（短）を取り付けます。

3. アンプを並べて置いて、付属のネジを 4 本ずつ使用して、アンプの本体ケースに 2 つのリンクブラケットを取り付けます。

4. 4 本のラックネジとワッシャー（付属されていません）を使用して、ラックにアンプをマウントします。

※ ラックにマウントするためのネジとワッシャーはラックメーカーにお問い合わせください。

4.3.3 後方のラックマウント金具によるケーブル脱落防止

後方のラックマウント金具のスロットに、標準の結束バンドを使用して接続してあるケーブルを固定することで、ケーブルの不意の脱落を防止することができます。

5. 故障かなと思ったら

問題	解決策
電源が入らない	▪ 電源をオンにします。電源がオンの場合、フロントパネルの LED が青になります。 ▪ AC 電源コードが差し込まれていることを確認します。 ▪ 他の装置で動作確認済の別の AC コンセントを試してみてください。
電源はオンになったが、音が聞こえない	▪ ソース機器がオンになっていることを確認します。 ▪ ソース機器からの入力信号があることを確認します。 ▪ ソース機器からアンプへのケーブル接続を確認します。 ▪ 目的のソース（A/B）がフロントパネルで選択されていることを確認します。 ▪ DXA VC-AB がリアパネルの REMOTE コネクターに接続されている場合、目的のソース（A/B）が DXA VC-AB で選択されていることを確認します（DXA VC-AB によって、フロントパネルの入力セレクターは無効になります）。 ▪ MASTER LEVEL ボリュームが上げられていることを確認します。 ▪ DXA VC-ABがリアパネルの REMOTE コネクターに接続されている場合、リモートコントローラーの音量調整ボリュームが上げられていることを確認します（リモートコントローラーによって、フロントパネルの MASTER LEVEL ボリュームは無効になります）。 ▪ 3.5mm ステレオミニプラグが AUX INPUT に接続されていないことを確認します。AUX INPUT には優先機能があるため、AUX INPUT に入力ケーブルが接続されていると、AUX INPUT の音源を再生していない場合やケーブルに機器を接続していない場合でも、INPUT A/B からのソースは自動的に無効になります。 ▪ コンタクトクロージャーがリアパネルの MUTE コネクターに接続されている場合、ミュート機能がトリガーされていないことをコンタクトクロージャーのスイッチで確認します。 ▪ ソースがリアパネルの PAGE コネクターに接続されている場合、ページ機能がトリガーされていないことを確認します。 ▪ スピーカーが適切に接続されていることを確認します。 ▪ スピーカーのタップが正しく設定されていることを確認します。 ▪ アンプの適切な換気が確保されていることを確認します。換気が適切ではない場合、アンプは保護モードになり、音声が聞こえなくなることがあります。 ▪ 出力配線が正しいことを確認します。出力がショートすると、アンプは保護モードになり、音声が聞こえなくなることがあります。
電源はオンになったが、音が聞こえにくい	▪ オーディオソースの出力が定格レベルまで上げられていることを確認します。 ▪ ソースからアンプへのケーブル接続を確認します。 ▪ アンプの GAIN ボリュームでソースの入力レベルを上げます。フロントパネルの INPUT CLIP LED が赤くなるまで、GAIN ボリュームを回します。次に INPUT CLIP LED がまれに点灯する程度になるまでボリュームを戻します。 ▪ アンプの OUTPUT TRIM ボリュームが下がりすぎていないことを確認します。 ▪ リモートコントローラーがリアパネルの REMOTE コネクターに接続されている場合、リモートコントローラーの音量調整ボリュームが上げられていることを確認します（リモートコントローラーによって、フロントパネルの MASTER LEVEL ボリュームは無効になります）。
音に歪みがある	▪ フロントパネルの INPUT CLIP LED が赤く点灯していないことを確認します。LED が赤い場合は、ソースの出力レベルを下げるか、入力ゲインを減らします。 ▪ 入力信号に雑音がない場合、スピーカーが過入力になっていないか、または損傷していないかを確認します。スピーカーのタップ設定を確認します。
不自然な音がする	▪ 使用するスピーカーに適切な EQ プリセットが選択されていることを確認します。FreeSpace® DS 16/DS 40 以外のスピーカーを使用する場合は、HPF 設定を使用します。 ▪ フロントパネルの TREBLE および BASS ボリュームを確認します。 ▪ スピーカーの配線が正しく行われていることを確認します（+ 同士、- 同士を配線する）。

5.1 お問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先
　ボーズ株式会社　サービスセンター　　お客様専用ナビダイヤル 0570-080-023
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。
　〒206-0035 東京都多摩市唐木田 1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先
　ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター　　お客様専用ナビダイヤル 0570-080-021
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

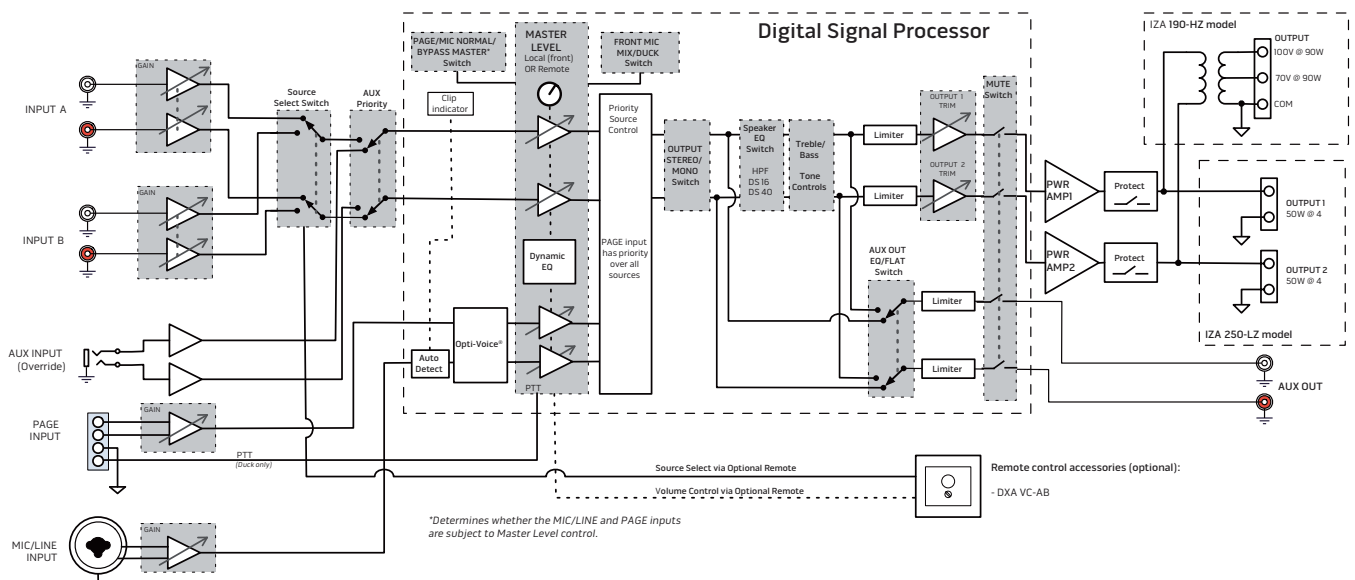
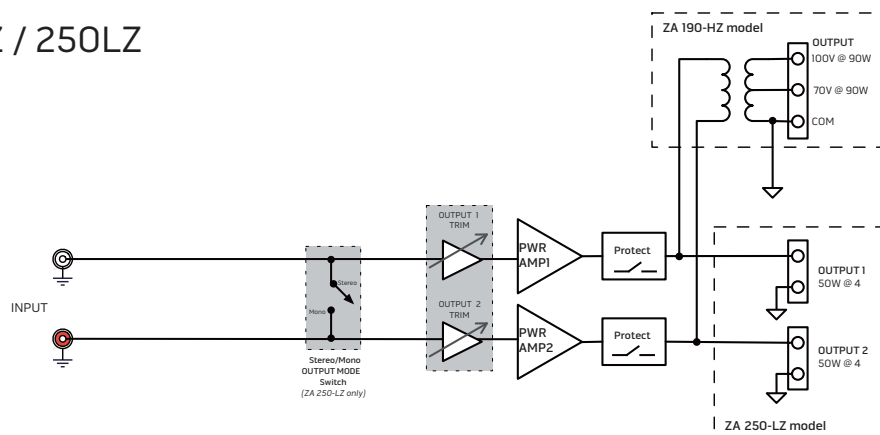
6. 保証

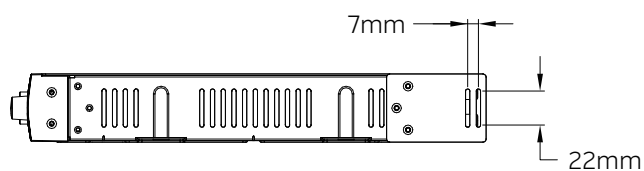
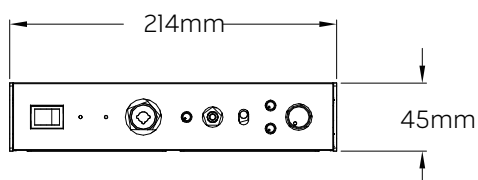
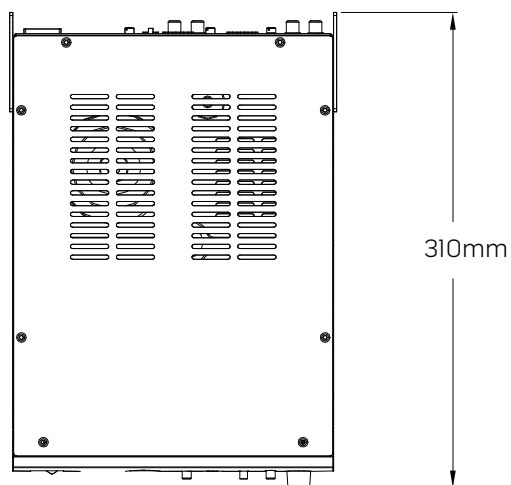
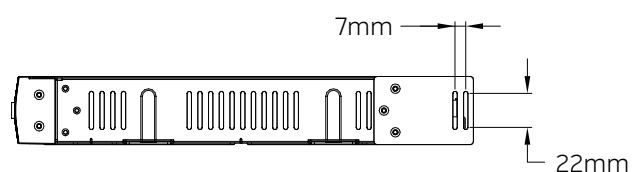
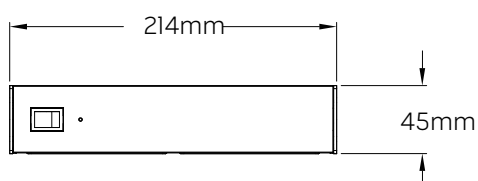
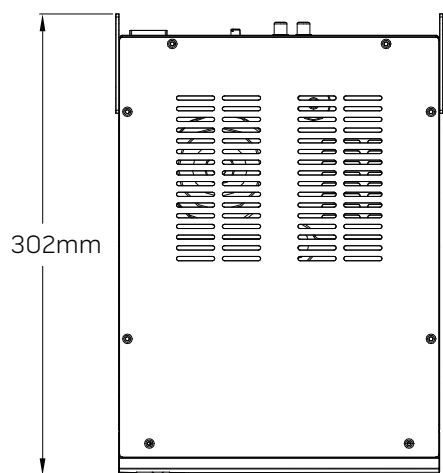
保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

その他追加情報

製品についての追加の情報がお知りになりたい場合は、http://pro.Bose.com/をご覧ください。

7. ブロックダイヤグラム

IZA 190-HZ / 250LZ

ZA 190-HZ / 250LZ

8. 寸法図

IZA 190-HZ / 250LZ

ZA 190-HZ / 250LZ

ボーズ株式会社　http://www.bose.co.jp/
〒150-0036　東京都渋谷区南平台町16-17 渋谷ガーデンタワー 5階

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品は、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-1493-E
12・11 (B)